

# 文化

## 遊びつくし「卒業」する大切さ

学校段階における卒業以外にも、人生にはさまざまな卒業がある。どんな卒業であっても成長するために大切な節目である。小さな子どもであっても、

添い寝からの卒業、ままごとからの卒業などがある。とうぜん卒業する前には、そのことを十分に堪能する必要がある。卒業した場所や事柄を懐かしむことはあっても、そこへ戻ることはほとんどあり得ない。卒業がうまくいかない、いつまでもゆがんだ執着心を植え付けることになりかねない。

昨年日本中を震撼させた事件に、秋葉原無差別殺人事件があった。二十五歳という若さで犯行に及んだ犯人は、青森の教育に高い関心を持つ家庭に生まれ育った。彼は、高校二年生になるまでテレビは「ドラえもん」と「まんが日本昔ばなし」だけしか見ることを許されていなか

加納 寛子



った。殺人など残酷な報道があるからとニュース視聴も禁止されていた。そして、ゲームは週に一時だけ、異性とのお付き合いも禁止という、著しい禁欲的な子ども時代を送っていた。子どもは、小学生時代はゲームセンターやファストフード店へ週のうち半分は通っていた。だが、中学へ上がるころには卒業し、それ以降行きたいと思つたこと

どもは好奇心旺盛であるが、飽きやすく、特別な動機づけがない限り長続きしないことが多い。昔は学童保育などもなく、核家族家庭で鍵っ子だった筆者は、小学生時代はゲームセンターやファストフード店へ週のうち半分は通っていた。だが、中学へ上がるころには卒業し、それ以降行きたいと思つたこと

## 子どもは経験積み成長

### 判断力育成阻む「過剰な禁止」

験に、どれほどの弊害があるというのか。天気の良い日にゲームばかりしていないで外で遊べという言い分もよくわかるが、周囲の子どもたちがゲームで遊んでいる中、禁止をされてストレスをためさせていることの方が、精神衛生上良くない。子

は、時間には追われることなく、一つずつ堪能するまで遊びつくし、虫が脱皮するように、徐々に卒業していくことこそ大切で

か「日本標準ブックレット」でも述べたが、過剰な「禁止」は判断力の育成を阻害することになる。人殺しはいけないこと。男女交際はいけないこと。ゲームはいけないこと。テレビを見ることはいけないこと。成績が下がることはいけないこと。この規範がすべて守られているうちにはよい。だが、高校に入ってから成績が下がってしまった。成績が下がるといういけないことをしているが、どうにもならず、自責の念が芽生える。いけない

よく考えれば、男女交際を厳しく禁止した両親も男女交際のすえ結婚しなければ自分が生まれなかつたことにも気づく。成長過程で何の疑問も抱かず当然のこととして身につけていた「いけないこと」という価値観や規範は、必ずしも「いけないこと」ではなかつたのではないかと、思いになる。そして、成績が下がることは許される行為、テレビを見ることも許される行為、ゲームをすることも許される行為、男女交際も許される行為、そして、人殺しさえも許される行為かもしれないという逆をたどってしまうのである。

大人の見ている前でネットいじめなどはほしらないだろうと思われるかもしれないが、何げない会話で、特定の人への誹謗中傷へ発展する場面が多い。子どもとのコミュニケーションにマニュアルも台本もない。楽しくやりとりしている会話や行為が、実は誰かを傷つける危険性があるかどうかは、大人が高い意識で個別に見守る中でこそ育まれる。禁止ではなく、「この言い回しはよくない」「えー、そうかなー」などというコミュニケーションを通して、子どもは、健全な脱皮をしていくのである。



加納寛子著「誰でもよかつた殺人が起る理由」

自分になってしまいい、両親に申し訳ないと思う。ゲームやテレビはいけないことと思つてきたが、一人暮らしを始めてみて、そのような規範を持っているのは自分だけであることに気がつく。

昨今は「ケータイの学校持ち込み禁止」が議論となっているが、学校段階で禁止をされていく卒業したら、モラルある利用ができるのかと言えは、決してそうではない。「禁止」は判断力の育成を阻害するだけである。むしろ、親や教師の保護下で、堪能するまでネットやケータイを利用する経験をさせ、ネット・ケータイ遊びから早く卒業させることの方が大切である。

▽かのう・ひろこさんは1971年岐阜市生まれ。早稲田大学院博士後期課程満期退学。専門は情報教育、情報社会論。著書に「ネットジェ

ン」(編著)。

ネレーションのための情報リテラシー&情報モラル、「ケータイ不安」(共著)、「サイレント・レポリユーション」(編著)。

「誰でもよかつた殺人が起る理由」加納寛子

(山形大学学術情報基盤センター准教授)